

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600381		
法人名	有限会社楽さん家		
事業所名	24時間宅老所楽さん家		
所在地	防府市東松崎町4-16		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町受理日	令和1年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和元年9月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症も寝たきりも丸ごと受け止めて、個々の利用者の方々のペースに合わせて家庭的な雰囲気支援し、暮らしていける場を提供できるよう努めています。楽さん家は利用者ご家族が笑顔で会える環境作りを行っています。勤務する職員もしっかりと連携をとりながら、職務を行っています。認知症利用者を多職種の職員で連携し支援を考え対応しています。医療面に関して、利用者・家族の方々の希望がありましたら終末を迎える事ができ、在宅医療に向け医師との連携を図っています。地域との関係を構築し、反映できるように繋がりを強化し、地域の中で当たり前で過ごせるように環境を整えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関りの中での利用者の言葉や、表情、行動などを個人記録に記録されて、思いや意向の把握に努められ、毎月のミーティングで職員間で話し合わせ、利用者一人ひとりの思いにこたえられ、個別の外食支援(肉料理やラーメンなど)につなげておられます。地域の防災部の協力を得て、事業所を拠点としての防災訓練を実施されている他、事業所は災害時の一時避難場所の指定を受けておられるなど、災害時の地域と協力体制を構築されています。事業所独自の「よかったほっと報告書」に職員がよかった、ほっとしたと思った取り組みを記録され、事例に基づいて充実感や達成感を味わったことを話し合われて、利用者のより良いケアにつなげるよう取り組んでおられます。看護職員が専門研修(褥創、看取り、急変時の対応)などを受講され、内部研修の復命時に、演習をされて職員間で共有すると共に、消防署での救急救命講習会に参加されるなど、応急手当や初期対応の訓練に取り組まれておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「楽さん家の心」「楽さん家の心意気」をスタッフ間で共有・把握し、利用者の方のケアに努めている。常に、再確認ができるように玄関や事務所に掲げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議時や毎月のミーティングの中で話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個別支援等で入居者の方と地域の周りを歩いたり、買い物に行ったりと地域のイベントなどに参加している。	自治会に加入している。利用者と職員は一緒に回覧板を回したり、毎月発行している事業所だよりを自治会に回覧している。職員は、清掃作業や防災用の土のうづくりに参加している他、自治会と合同の防災訓練を実施している。利用者は、天満宮の祭り(節分祭、花火大会)の見物に出かけたり、子ども神輿の事業所の立ち寄りなどで交流している。ボランティア(吹奏楽、ギター演奏)の来訪がある。近所のスーパーや道の駅に利用者と職員が一緒に出かけた時や事業所周辺の散歩時に地域の人と挨拶を交わしている他、近くの小学校の放課後デイサービスの児童との交流や独居老人宅の見守りなどを行っているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト活動、SOSネットワークなどを通して地域の方に認知症の方を理解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は各スタッフに配布し、皆が共有できるように保存している。	管理者は職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、全体ミーティングで話し合い、管理者が結果をまとめて回覧して全職員で共有している。前回の評価結果を受けて、消防署が行う救急救命法を受講している他、看護職員が看護協会が行う専門研修(褥創、糖尿病の急変時の対応など)を受講して、内部研修で復命し、応急手当や初期対応の訓練を実施したり、救急対応手順チェックシートを作成しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回行い、事例報告など行っている。自治会の方々との防災訓練を行っており、地域行事参加への提案や実施をしている。	会議は2か月に1回、自治会長、民生委員、家族、市担当者、地域包括支援センター職員、幼稚園園長、防災設備機関、近隣他施設の職員等のメンバーで開催している。利用者状況、行事報告、事故、ヒヤリハット報告、身体拘束適正化委員会、事業所の施設見学、非常食の試食会、防災訓練の実施報告等をして、話し合いをしている。メンバーより地域行事の花火大会の見学場所の提供の案があり、参加しているなど、そこでの意見をサービス向上にいかしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などに出席して頂き、市との連携を行っている。	市担当者とは、運営推進会議時やハートフルネット会議、グループホーム連絡会議出席などで情報交換をしている他、直接出向いて相談をして助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域包括ケアシステムで地域の現状(独居数)などの情報を得て、独居老人宅の見守りや安否確認をして理、入居の申し込みの相談をしているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中9～18時までは施錠無し、18～9時までを夜間施錠している。ベッド柵に関してもいつでも降りれるスペースを取っている。帰宅願望など切迫性のある方については家族への連絡にて居室やベッドに鈴を配置し対応している。	職員は、内部研修で身体拘束適正化委員会や高齢者虐待防止学習テキストを使って学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、限界に施錠していない。スピーチロックについては、管理者が指導し、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化についての会議を年4回開催し、職員同士が啓発し合える環境作りを図っている。また、施設内研修の実施を行っている。ひやりはっと、事故報告書を用いて、情報共有が出来るよう毎月の会議でスタッフ間で意識している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方の持つ尊厳を守って生活できる環境作りを意識している。制度面等は施設内での勉強会や外部研修への参加を行い学んでいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問等、いつでも気軽に声をかけてもらえるように、文章や口頭での説明を行っている。利用者や家族が言いやすいよう、職場内の雰囲気作りに気をつけている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情について、速やかに対応しスタッフ間で情報共有している。苦情窓口を設置している。	相談や苦情受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、家族参加の行事(花見、花火大会、日帰り温泉旅行、クリスマス会)、電話等で、家族からの意見や要望を聞いて、「要望、苦情報告書」に記入し、全体ミーティング時に話し合っ、反映させている。請求書送付時に家族に手書きの手紙や写真入りの手紙を同封し、家族からの意見が出しやすいように工夫している。家族からはエアコンの温度調節や利用者の寝具の選択等の要望があり、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	良い支援ができるように管理者、主任に時間を作っていただき相談できる環境がある。スタッフからの意見や提案を管理者が把握するため、意見収集シートを活用する事や時間を作り意見収集を行っている。	管理者は、月1回のミーティング時に職員が利用者の気づき等を記入したミーティングレポートを議題として話し合いをしている他、日常業務の中でも意見や提案を聞いている。職員がよかった、ほっとしたと思った取り組みを「よかった、ほっと報告書」に記録して、事例に基づいて充実感や達成感を味わったことを話し合い、利用者へのよりよいケアにつなげるよう取り組んでいる。環境美化の提案や身体拘束適正化会議の開催への提案などを反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを目標にし、月1回のスタッフミーティングで話している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加し内容をスタッフミーティングで報告。資料や記録を供覧している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として、受講の機会を提供している。受講後は内部研修時に復命し、資料を回覧して職員間で共有している。看護師が看護協会の専門研修(褥創、糖尿病の急変時対応、摂食障害、看取り、認知症など)を受講し、内部研修時に復命するとともに、初期対応や応急手当の訓練をしている。グループホーム協会の年4回の学習会(運営推進会議、実践者研修など)にも参加している。内部研修は、年間計画を作成して、月1回のミーティング時に、介護保険制度の内容、接遇、感染症対策、年2回の急変時の対応と認知症ケアなどを実施している。新人研修は、初任者研修受講後、管理者から新人研修マニュアルに基づいて接遇、救急対応、秘密保持などを学び、日常業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)山口県宅老所グループホーム協会の学習会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後の細やかな情報を本人もしくは家族より話して頂ける環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前と後で気軽に相談や質問を受ける体制を作っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要か本人や家族との話す時間を持つようにし、必要な支援をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を活かし、出来る事や常に尊重の念を持ち接する事を心掛けている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安や疑問に思う事があれば気軽に声かけ出来るように職場の雰囲気作りを気をつけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みのある家具や品物を出来るだけ設置し、家族や知人が来訪しやすい環境を作っている。	家族(娘、息子、孫)の面会や親戚の人、知人の来訪がある他、年賀状や葉書きなどでの交流を支援している。花見や花火大会、クリスマス会などの事業所の行事の時には家族の来訪があり、一緒に楽しんだり、家族の協力を得て、外出や外食、日帰り温泉旅行、一時帰宅、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性に合わせ座席等考えている。また自室でのプライベートの時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも家族の介護者の相談連絡を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に合ったコミュニケーションの回り方を考え、想いや希望に添えたケアが出来るように努めている。	入居時に介護情報提供書や主治医の意見書をもとに、社会福祉協議会のアセスメントシートやセンター方式シートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、行動などを、個人記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。利用者の思いに応じて、個別の外出支援(肉料理、ラーメンなど)をしている。困難な場合は家族からの情報を得て、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の入居前の生活歴など家族から聞き取りアセスメントを作成している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常より入居者に何が必要なのか理解し、ケアに反映している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のアセスメントをしっかりと行い、介護計画を立て、定期的に見直し・評価を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、利用者や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。利用者の状態や要望に変化があれば、その都度の見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と合わせスタッフが気づいた点など書き出し職員が見れるように供覧しケアに対する意識づけをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月開いているミーティングにて、本人、家族の意見や希望があればサービスの調整を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援や地域でのイベントなど参加し楽しむことが出来ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所近くにかかりつけ医があり、突発な体調の変化に早急に対応していただいている。	本人家族の納得を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療がある。2週間に1回の歯科往診で、歯科衛生士による口腔ケアを受けている。他科受診は事業所が支援しており、家族が同伴することもある。医療機関には、通院日誌で情報を提供している。受診結果は業務日誌に記録し、全職員間で共有し、家族には電話で報告をしている。夜間、緊急時の対応は、看護師とのオンコール体制をとり、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に連絡・相談・報告をこまめに行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が家族と同伴し、情報交換をするようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より家族へ情報を提供し何度も話し合う機会を設け方針を決めている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて、事業所ができる対応について家族に説明して確認している。「急変時の対応や看取り支援」については同意書を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師、職員間で話し合い、方針を決めて共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的にミーティング内で急変時の対応の研修をしている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に原因などを記録して、その日の職員間で対応策などについて話し合い、申し送り時に共有している。月1回のミーティング時に改善処置を再検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。看護職員は、外部研修(看護協会の専門研修)で糖尿病の急変、急変時の対応などを受講し、内部研修で復命して、演習し共有している。消防署の救急救命法の講習を受講し、救急対応手順シートや救急法マニュアルを更新して、応急手当や初期対応の訓練を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区の防災部と協力体制を作り年2回訓練を行っている。	年2回、地区の防災部と防災機器業者の協力を得て、夜間想定火災時の通報、避難場所や避難経路の確認、利用者の誘導、初期消火等を実施している。運営推進会議で防火訓練について話し合い、事業所を拠点とした地区の防火訓練も実施している。事業所の緊急時の連絡網には地区の防災部の加入があり、協力を得ている他、防災マニュアルに基づいての手順が決められている。地区の指定避難場所まで距離があるため、事業所が一時避難場所となっており、非常食や飲料水などの備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの1人1人の意識づけを行っている。	内部研修で学んでいる他、身体拘束適正化会議の中で学び、利用者の尊厳ある生活や一人ひとり人格を尊重し、プライバシーや誇りを損ねない言葉かけや対応をしている。記録物や個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務についても職員は理解し、遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望ややりたいことを自己で決定できるように分かりやすい声かけを努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にその都度対応できるようにスタッフ間で連携を図っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人の好みに合わせた服装など聞き、提供できるよう心掛けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要介護度が高くなり実施困難になってきているが、本人の残存機能を見極め支援している。	副食は三食とも配食サービスを利用し、主食のご飯は事業所で炊いている。利用者一人ひとりに合わせた形状の工夫をしている。月1～2回は利用者と一緒に食材の買い物に行き、食事づくりをしている。利用者は、職員と一緒にテーブル拭き、盛り付け、下膳、食器洗いなどできることをしている。梅ジュースづくりや一人ひとりの希望を聞いての誕生日食、家族も参加する七夕の食事会、おやつづくり(ホットケーキ、どら焼きなど)、個別の外出(肉料理、ラーメン)などの他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことができるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分チェック表を作成し、体調管理をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。本人に合った口腔ケア器具を使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し誘導を行っている。	個人記録で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品などを積極的に飲用して貰っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入浴できるよう体調に合わせて入浴実施している。	入浴は毎日、10時から12時までと、14時から20時の間可能で、利用者一人ひとりの希望に合わせて3日に1回は入浴できるように支援している。入浴チェック表で入浴、清拭、シャワー浴、爪切りなどの整容の確認をしている。入浴したくない人には、声かけやタイミングの工夫、時間の変更、職員の交代などの工夫をしている。利用者の体調に応じて、シャワー浴、清拭、足浴、部分浴、リクライニングシートを利用した寝たままの状態での入浴など、工夫して支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の状況に合わせ必要時にお昼寝等の声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフのすぐ目に入るところへ内服のファイリングを設置し確認できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	医師や、家族と相談し本人の体調に合わせて支援している。	畑づくり、草抜き、花壇づくり、水遣り、床のモップ掛け、掃除機掛け、テーブル拭き、下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ボタン付け、雑巾縫い、新聞たたみ、歌を歌う、パズル、カルタ、テレビ視聴、カラオケ、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、豆つかみ、ボール投げ、スイカ割り、習字、季節の行事(節分、七夕、花火大会、クリスマス会)など、一人ひとりの利用者に応じた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びを持って過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて買い物やドライブ等個別支援をしている。	周辺の散歩、日光浴、外気浴、道の駅、スーパーや衣料品店での買い物、天満宮への初詣、梅まつり、四季の花見(桜、つつじ、向日葵、菊、紅葉)の他、利用者の家族が経営する店での買い物、外庭でのティータイム、子どもカフェ(月2回)など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金が持ちたいとの訴えがあれば出来る限り対応できるようにスタッフ間で話し合いをしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば行えるよう配慮していくが、現状として利用者の方自身が電話をしたり、手紙を書く支援はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように花など飾りつけや、四季に合った行事をしている。	食堂兼居間には大きな窓があり、自然光が差し込んで明るく、広々としており、テレビ、ソファ、食卓、テーブル、椅子を配置し、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごせるようになっている。対面式の台所からは、御飯を炊く匂いや食器を洗う音がして、生活感がある。回廊式の廊下には行事の写真や絵画を飾っている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、会話やテレビを見たり、共同で楽しめる空間を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はなるべく早く馴染んで頂けるように居住環境を整えている。	整理箆笥、和室用の照明器具、ぬいぐるみ、テレビ、文化刺繍の掛け軸、机、椅子、クッション、小物入れなど使い慣れたものを持ち込み、カレンダーや家族の写真、似顔絵、誕生日の飾りを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力などを把握出来る事、やれる事を見つけ生活している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 24時間宅老所 楽さん家

作成日: 令和 元 年 12 月 3 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急・急変(初期)対応による訓練の定期的訓練の維持	事故防止の取り組みや事故発生時(急変含む)の備えについてスタッフ全員の知識・意識向上を目指す。	毎月のミーティング内で、入居者の一人ひとりのリスク対応方法を検討し、看護職員による応急対応や初期対応についての説明・演習訓練を行っていく。外部研修等へも参加し、AED等の取り扱いを学ぶ。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。